

「環」の公共事業実施ガイドラインチェックリスト

流19国債木津川水質1第6001の2号の1の3

〔 下水道・集落排水・合併浄化槽〕

工事名	木津川流域下水道 洛南浄化センター建設工事(急速ろ過施設機械設備)			
実施番号	(土・流)-19-国債木津川水質1-第6001の2号の1の3(構想番号		
工事箇所	八幡市八幡焼木1			
発注機関	流域下水道事務所			
評価実施	設計段階	平成 年 月 日	(担当者職氏名)	
	施工段階(積算時)	平成19年7月31日	(担当者職氏名) 主任 中 耕司	
	施工段階(工事完成時)	平成22年 2月26日	(担当者職氏名) 技師 安中 孝行	

地域の環境像

洛南浄化センターは、京都盆地の南部、桂川・宇治川・木津川の3川合流点に位置し、木津川下流域の京都市、宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町及び木津川市(旧山城町)の6市2町の汚水を処理する施設として昭和61年3月から供用を開始している。周辺には桜の名所となっている背割堤や豊かな環境を残した河川があり、周辺環境に調和した整備を図っている。

環境の保全に特に配慮する事項

本工は、下水道処理施設の内、急速ろ過施設機械工事である。今回の工事で特に環境に対し配慮すべき事項として、CO2排出を出来るだけ低減するため建設機械運転時にはアイドリングストップ等を実施するとともに、周辺環境への影響を出来るだけ少なくする必要がある。

配慮項目	設計段階		施工段階		記載内容の理由・根拠	
	該当	配慮	該当	配慮 積算時 工事完成時		
地球環境・自然環境			2	2	2	
地球温暖化(CO2排出量等)						
府内産の間伐材や現地発生材を使用する。	-	-	-	-	-	該当なし
工事車両や建設機械のアイドリングストップを行う。	-	-	-	-	-	建設機械使用有り
自然エネルギー、省エネルギータイプの下水道施設等を導入する。	-	-	-	-	-	該当なし
省エネルギー、省資源に配慮した建設資材や建設機械等の使用及び高効率機器、省エネルギー設備の導	-	-	-	-	-	該当なし
木製型枠の反復使用や鋼製型枠の使用等により、熱帯産材の使用を削減する。	-	-	-	-	-	型枠使用有り
CO2の吸収やヒートアイランド現象の抑制に資する緑化を推進する。	-	-	-	-	-	該当なし
下水熱を処理場内の冷暖房に使用する。	-	-	-	-	-	
処理場内から排出するメタンを活用する。	-	-	-	-	-	
処理場から排出する温室効果ガスを抑制する。	-	-	-	-	-	
空調機器はオゾン層を破壊しない冷媒とする。	-	-	-	-	-	
節水機器や中水利用設備を導入する。	-	-	-	-	-	
地形・地質・土砂移動						
京都府レッドデータブックに掲載された地形・地質などの分布状況を把握し、改変を回避する。	-	-	-	-	-	
現況地形を極力残す。	-	-	-	-	-	
野生生物・絶滅危惧種						
京都府レッドデータブックに掲載された絶滅危惧種などの生息・生育状況を把握し、生息・生息環境の改変を回避する。	-	-	-	-	-	他工事の関係で周辺の水路水生昆虫、魚類調査を実施したところ、外来種ばかりであったため該当なし。

配 慮 項 目	設 計 段 階		施 工 段 階			記 載 内 容 の 理 由 ・ 根 拠
	該 当	配 慮	該 当	配 慮		
				積 算 時	工 事 完 成 時	
上記以外にも、貴重と考えられる野生生物の生息・生育地が存在する場合には、その改変を回避し、回避できない場合は影響の低減や代替措置を行う。	-	-	-	-	-	他工事の関係で周辺の水路水生昆虫、魚類調査を実施したところ、外来種ばかりであったため該当なし。
構造物が動物の移動の支障とならないようにする。やむ終えない場合は、新たな移動経路を設置する。	-	-	-	-	-	該当なし
照明等による野生生物への影響を低減する。	-	-	-	-	-	
野生生物の繁殖期間、産卵期間等における影響を低減する。	-	-	-	-	-	該当なし
生態系						
京都府レッドデータブックに掲載された地域生態系等の分布状況を把握し、改変を回避する。	-	-	-	-	-	該当なし
渡り鳥の飛来地や魚類の繁殖地など、地域固有の生態系を把握し、生態系に影響の少ない構造・工法を採	-	-	-	-	-	該当なし
工事施工時・施工後において、汚水や騒音の発生、処理水の放流などによる生態系への影響を低減させ	-	-	-	-	-	該当なし
地域産の郷土種を利用した緑化・植栽や表土の復元、構造物の覆土などにより生態系を保全する。	-	-	-	-	-	該当なし
樹林地や草地等の自然植生の連続性を確保する。	-	-	-	-	-	
生活環境			12	12	12	
水環境・水循環						
工事施工に伴う汚水、濁水、土砂の流出を防止する。	-	-	-	-	-	該当なし
地盤改良、施設の設置等による地下水汚染を防止する。	-	-	-	-	-	該当なし
広範な裸地出現防止のため、段階的に工事を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
雨期における大規模な土工事は極力行わない。	-	-	-	-	-	該当なし
工事の各段階での調整池（沈砂池）の設置及び適切な管理を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
雨水の地下浸透による水循環の維持・回復を行う。（浸透側溝、浸透柵の設置、透水性舗装の採用など）	-	-	-	-	-	
樹木伐採等による保水機能の低下を極力回避する。	-	-	-	-	-	
工事仮設事務所からの生活雑排水の適正処理を行う。	-	-	-	-	-	事務所設置の可能性有り
処理場内の修景用水、雑用水、機械用水などの処理水の利用を進める。	-	-	-	-	-	
大気環境						
工事の集中を避け平準化を図るなど、計画的な工事工程及び車両の運行を行う。	-	-	-	-	-	資材運搬作業有り
迂回路の確保、適切な交通規制等により円滑な通行を確保する。	-	-	-	-	-	資材運搬作業有り
建設機械や工事車両の稼働・走行時間の短縮を行う。	-	-	-	-	-	建設機械使用有り
排出ガス対策型（低NOx型）建設機械を使用する。	-	-	-	-	-	建設機械使用有り
建設機械及び工事用車両の点検・整備を徹底する。	-	-	-	-	-	建設機械使用有り
建設機械及び工事用車両の燃料は、軽質軽油や低硫黄軽油など良質なものを使用する。	-	-	-	-	-	
工事現場の駐車場の適正配置やサイン設置により、迅速に駐車できるようにする。	-	-	-	-	-	工事用車両使用有り
臭気発生物質の適正監視及び使用量の削減を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
周辺への悪臭防止対策を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
土壌・地盤環境						

配 慮 項 目	設 計 段 階		施 工 段 階			記載内容の理由・根拠
	該 当	配 慮	該 当	配 慮		
				積 算 時	工 事 完 成 時	
客土による汚染土壌の導入や化学物質などによる土壌の汚染を防止する。	-	-	-	-	-	該当なし
土地の履歴調査により汚染物質の有無を把握する。	-	-	-	-	-	
鉱山跡地等重金属などの影響が認められる土地の改変を回避する。	-	-	-	-	-	
地下水脈の阻害を回避する。	-	-	-	-	-	
騒音・振動						
騒音、振動等に配慮した工法を採用する。	-	-	-	-	-	該当なし
防音壁、防音シート、緩衝緑地等の設置により、騒音防止を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
低振動、低騒音型の建設機械を使用する。	-	-	-	-	-	建設機械使用有り
早朝や夜間の建設機械の稼働・運搬を避ける。	-	-	-	-	-	建設機械使用有り
施設稼働時における周辺への騒音防止対策を行う。	-	-	-	-	-	
高機能舗装等を導入する。	-	-	-	-	-	該当なし
廃棄物・リサイクル						
建設廃棄物の発生抑制、分別保管・収集、再資源化、適正処理を行う。	-	-	-	-	-	建設廃棄物有り
現況地形を活かし、造成土量を抑制する。	-	-	-	-	-	
建設発生土の再利用、適正処理を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
再生骨材、再生砕石等の再生資源を使用する。	-	-	-	-	-	該当なし
梱包材など容器、包装廃棄物の発生抑制を行う。	-	-	-	-	-	建設資材使用有り
植物廃材の有効利用を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
緑化工事に際して、下水汚泥肥料を使用するなど下水汚泥を有効利用する。	-	-	-	-	-	該当なし
化学物質						
施工前にPCB廃棄物やアスベスト等の有害化学物質の有無を確認する。	-	-	-	-	-	該当なし
廃棄物の焼却処理は、適正な廃棄物焼却施設で行う。	-	-	-	-	-	該当なし
粉塵						
工事用車両・建設機械の洗浄設備・施設を設置し、適切な管理を行う。	-	-	-	-	-	建設機械等使用有り
防塵シートの設置や散水を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
電磁波、電波環境、日照						
電波障害、日照障害等を防止する。	-	-	-	-	-	
地域個性・文化環境						
景観						
構造物等の位置、規模、構造、形態、意匠、素材及び色彩等について、漁村等地域の特性や統一性に配慮して、周辺景観への影響を低減させる。	-	-	-	-	-	該当なし
地域の景観や自然植生と調和した緑化を行う。	-	-	-	-	-	
支障となる樹木等については、移植等により修景に活かす。	-	-	-	-	-	該当なし

配 慮 項 目	設 計 段 階		施 工 段 階			記載内容の理由・根拠
	該 当	配 慮	該 当	配 慮		
				積 算 時	工 事 完 成 時	
歴史的建造物等の優れた歴史的・文化的景観に近接する場合は、一体的な保全及び修景に配慮する。	-	-	-	-	-	
歴史的に重要な家屋(群)や水路、棚田、はさ木、石垣など、地域の伝統的な景観構成要素を保存する	-	-	-	-	-	
地域の文化資産						
史跡・名勝・天然記念物、埋蔵文化財包蔵地、文化財環境保全地区、文化財指定・登録の建造物、庭園、石造物等の状況を把握し、直接的な影響及び周辺環境の改変などの間接的な影響を回避する。	-	-	-	-	-	
埋蔵文化財包蔵地においては、適切な保存等を行う。	-	-	-	-	-	該当なし
建造物等の位置、規模、構造、形態、意匠、素材及び色彩等について、地域の風土や文化などの文化資産に調和したものとする。	-	-	-	-	-	
古道や街道、峠、社寺への参道など、歴史的に重要な道については、その線形や形態等を保存する。	-	-	-	-	-	
鎮守の森や神木など地域の民間信仰の対象、故事来歴や伝承のある自然の消失・改変を回避する。	-	-	-	-	-	
里山の保全						
近隣の里山の分布や植生の状況を把握し、地域で典型的な里山の消失や分断を回避する。	-	-	-	-	-	
伝統的行祭事						
年中行事や祭礼、儀礼、法会、民俗芸能などの、地域における風俗習慣の拠点となっている場所を把握し、その消失や改変を回避する。	-	-	-	-	-	
地域における伝統的行祭事の実施を施工により中断、分断等させない。	-	-				
地域住民との協働						
計画策定や施工、施工後の管理において、地域住民との協働の仕組みを取り入れる。	-	-	-	-	-	

合 計			14	14	14	
-----	--	--	----	----	----	--